

平成29年度第1回ナセ BA 運営協議会議事録

1. 開催日時 平成29年7月4日(火) 午後3時～午後4時30分

2. 開催場所 ナセ BA 体験学習室

3. 出席者

(委員)

土屋 宏 (米沢市立興譲小学校校長)

大沼敏美 (県立米沢東高等学校校長)

我妻 仁 (前市立図書館協議会会長)

吉原ゆみ子 (図書館サポーター)

菊池修 (米沢市芸術文化協会副会長)

中嶋朱実 (米沢市芸術文化協会)

白田静雄 (リーガル店主)

田島奈央 (主婦)

計 8名

(事務局)

公益財団法人米沢上杉文化振興財団

佐藤広明 (理事長)、菅野智幸 (常務理事兼事務局長)、村野隆男 (館長)、

青木昭博 (主幹)、遠藤朋香 (図書業務担当)、齊藤かおり (図書業務担当)、

福石敏史 (図書業務担当)、石黒志保 (郷土資料業務担当)、

生熊郁子 (総務)

計 9名

欠席者

(委員)

加藤公一 (米沢市立第三中学校校長)

新藤 透 (米沢女子短期大学准教授)

計 2名

4. 開 会 (事務局長)

5. あいさつ （理事長）

当財団は昨年度から、伝国の杜とナセ BA という、「歴史と教育、文化の町米沢」の核となる2つの文化施設の指定管理者として、さまざまな業務を行ってきた。生涯学習施設や観光・交流拠点としても、博物館や図書館に対する市と市民の期待は大きく、とりわけ図書館はギャラリーとともに中心市街地に賑わいを取り戻す波及効果も期待されている。

昨年度ナセ BA は、施設内外の斬新さや15万冊の開架図書、ギャラリー面積の広さなどでも、待望久しい市民の期待に応え、県内外から視察や見学も相次ぐなど、大きな話題となった。図書館の利用者は閲覧室が24万人弱、学習室が6万人強で図書の貸出冊数が39万冊余り。ギャラリーは、平均稼働率が75%、加えてウッディコンサートも人気で、6万人余りの利用があった。

昨年度（7月から3月までの9か月）のナセ BA の利用者はトータルで36万人を超え、想定を大きく上回る利用状況となった。まずまず、市と市民のみなさんの期待に応えられたのではないかと。

とは言え、財団としては図書館やギャラリーの管理運営は初めてのことであり、円滑な運営のための土台作りに試行錯誤する1年でもあった。

本日は、限られた時間ではあるが、最初に昨年度の事業や業務の評価と今年度の事業について概略を報告し、若干の質疑のあと、懸案のテーマについて、みなさまにそれぞれの御立場から御意見・御助言・御提言を頂戴したい。

今回のテーマは、「開館して1年のナセ BA に望むこと、期待すること」に絞っている。委員御自身が来館され利用されての御意見・御提言、あるいは生徒や家族や友人・知人が利用してふと漏らした不満や意見やあるいは評価する点などを踏まえて、御意見や御提言等を遠慮なく御願いたい。

図書館は「歴史に学び、今を生き、未来を創る市民の図書館」を目指している。ギャラリーは、「芸術文化を高め、さまざまな芸術文化に親しみ、活気あふれる市民の芸術文化活動の拠点」を目指す。これらのことを念頭におき、その上で、開館して1年経ったナセ BA に望むこと、あるいは今後期待することについて、委員のみなさまの御助言と御提言を頂戴したい。

6. 新委員自己紹介

（大沼敏美委員）

市内の高等学校の会長をしている米沢東高校の大沼です。生徒も大変御世話になります。

7. 職員紹介 （事務局長）

8. 議 事

運営協議会要綱第6条に基づき、我妻仁会長が議事を進行。

報告1) 平成28年度 公益財団法人米沢上杉文化振興財団運営自己評価について

(事務局)

これは、財団の職員が自己評価をし、課題を共有しながら様々な仕事の改善を図っていくというのが目的。その対象は、当財団の目標、運営方針、そして事業活動方針に基づいて行われる財団の業務全般で、事業の達成度合いを各担当が評価する。

可能なものは数値の目標を掲げ、それ以外のは評価しやすい具体的な表現を心がけている。

ナセBAの評価は平成28年度は試行期間で、平成29年度から本格実施となる。今年度は昨年度の結果を踏まえ、項目やその内容を見直して評価項目を設定している。

報告2) 平成29年度 市立米沢図書館・よねざわ市民ギャラリーの主な事業について

(事務局)

入館者数は、大体一昨年まで14万人程度で、3か月間の閉館期間があったにもかかわらず倍以上の数である。貸出冊数も、一昨年までは30万冊くらいが平均だったが、昨年度は9か月分で36万冊。これもかなりの増。新規登録者も開館して増え、通年ベースだと1000人弱だったので、一挙に6倍になった。

本日配布した利用状況資料は、昨年7月1日から6月30日までの1年間の数字である。議会などで開館前に示していたのは、図書館で28万人、全体で32万人という数字だった。図書館で38万人、全体で45万人になった。ギャラリーもこれまで毎年4万人前後だったので、倍増に近い数字になっている。

4月からアンケートを開始し、図書館について色々と御意見を頂戴している。その中で、高校生・中学生にマナーの悪い生徒がいて困る、と言った声が多い。日頃から図書館を利用していただいている高校生は非常にマナーの良い生徒たちが多いが、試験前にだけ来る生徒たちの中になんかという生徒が混じっているのが現状。勉強しに来るのか喋りに来るのかわからない生徒たちにはその都度注意している。具体的には、子どものコーナーにある6人で座れる閲覧席に8人くらいで座って、結局喋っている、そういう光景はよく見かけるのでその都度注意している。

一方、職員の対応が非常に丁寧で良いというお褒めの言葉も数多くいただいている。

(会長)

開館して1年が経ち、来館者数も予想を超えた多くの方が来られ、素晴らしいと言った半

面、館長からあったマナーの問題に苦慮するなど、みなさん色々感じておられることがあったり、身近な方からお話をお聞きしたりということがあれば、開館して1年のナセ BA に望むこと、期待することについて、自由にお話を聞いていきたい。

(田島委員)

私自身も利用する機会が大変多いので感じたことを率直にお話すると、スタッフの方には大変丁寧に対応していただき、図書の貸出など借りやすい雰囲気だ。ナセ BA 1年になるが、利用者が増えているのもわかる感じがする。

新着の本などが見やすい位置にあるので、図書館を初めて利用する人も目につきやすい。また博物館との連携で新着の所に博物館で今展示しているものや、それに関連する本、またTVとかで話題になっている本だとか、一番目立つところに出されているので、色々工夫されている。図書館に行ったことのない人でもどんどん呼び込めるような雰囲気をこれからも作っていただきたい。

先ほど中高生のマナーが悪いということがあったが、サイン掲示とかで対応されていて、中高生以外の方にも気を遣っているのも、これからは皆様のアンケートの声も大事にしていただき、どんどん図書館を良い雰囲気にしていただきたい。

また移動図書館について、これからどんどん利用していきたい。アタゴオルの巡回予定表というのは平成29年度のものはどこで見られるのか。HP 以外で見られると良いと思う。

(事務局)

今のところ、アタゴオルの巡回予定表はHP でしか公開していない。毎年2、3か所新規に来ていただけませんか、というお声を頂戴し、現実的に可能な所は増やしている。また、巡回先が近くにあれば、そこを利用してもらっている。一般の家庭で御利用というのは最近少ないが、今は老人ホームなどの施設や学童が多い。巡回先は増えているのでお近くのコミセンとか学校などを利用いただきたい。

(白田委員)

1周年おめでとうございます。この前、中心市街地活性化連盟と学生たちで1周年のイベントとして7月1日に花植えをした。大変天気も良く、楽しいひと時を過ごせたので、これからはみんなで図書館を中心とした街づくりを大学生・短大生を含めた学生でやっていくことをみなさんで確認した。こういう公共施設は安心・安全というのが大前提で、職員の努力を感じ、感謝している。

企画展示に関しても、先ほど先人顕彰コーナーを見たが、ちょうど今図書館の歴史をやっていて、すごく懐かしく、公園のところにあった2代目図書館を偲んで、私が初めて本に触れたのがあの図書館だったんだと、図書館の重要性を改めて感じた。図書に関しても良いものをどんどん購入してもらいたい。購入の希望というのがあったら、私たちでも買ってもら

えるのか。

(事務局)

もちろん購入できる。カウンターにリクエストの申込用紙があるので、それに御記入いただきたい。

(中嶋委員)

1周年おめでとうございます。あれだけの仕事をして、これ以上望んではいけないと思うくらいで、人が足りているのか心配。1年経って使い勝手も落ち着いてきたのではないかと感じている。素晴らしい作品を惜しげもなく飾っていて大丈夫かと心配しているが、気軽にを見せていただいている。先人顕彰コーナーも今度ゆっくり見たい。ウッディコンサートに関しても、いつも満員で、市民のみなさんに定着し、1年経った成果が出ていると思っている。

私もギャラリーの展示に関わっているが、特別困ったことはない。天井が高いのでその点は注意している。展示の内容に関しても、今までになかったような面白い個展が出ている。この間、山形の女流作家さんたちを御案内して、館長に館内を案内してもらったが、本当に羨ましがられた。

体験学習室も予約制だそうだが、なかなか予約できない状況らしい。

また、やはり学生のことは聞こえてきている。学生のみんなにはうんと勉強してもらいたいし、とても良いことなので使ってはだめということにならないように、先生方に御指導をお願いしたい。

1周年記念ということで、私も中心市街地活性化として、こまやで「まちなかアート市場」を共催させていただいている。どういった協力をしたらいいのかということ逆を教えてもらいながら、もっと連携していきたい。図書館とギャラリーというのは町のステータス。レベルを一番見られるところであるので、みんなで大事にしていきたい。

(事務局)

こまやでのイベントは、基本的にギャラリーの事業になるので一緒にやれる事業であれば相談いただきたい。中心市街地活性化協議会でもっと使ってもらいたいが、時期的なものもあり、冬場は厳しい。夏から秋に集中すると思うが良い試みがあればいつでも。

こまやを使って個展をやりたいというのは難しいと思うが、みんなで参加して盛り上げようという企画であって、尚且つアートに関するものであれば拒む理由はないので、あとはギャラリーとして応援していきたい。

(中嶋委員)

なにか周知してもいいのでは。どうやったらできるの?と聞かれる。窓口はどなたですか、と。館長だと言うが、使えるか使えないかわからない。お金かかるのかとか。

(事務局)

逆に言うところには作家さんたちの情報がないので、開館のときも今回1周年のときも中嶋さんに間に入っていただく形で作家さんと繋いでもらった。

(菊池委員)

最近の1年間で、アンデパンダン展などで新しい方、多くの方が出品してくれている。大変良いことだと思う。また、米沢市内だけではなくて置賜一円から出品者が増えていて、これもまた良いこと。広域的に置賜全体の展覧会とかARTS MEET展とか行われているので、これからもどんどん置賜の1番のギャラリーとして活動していきたい。また川西町等の部会員の方で展示をやってみたいという人もいて、どうしたらやれるのか聞いてこられたので、芸文協に相談してください、と言っている。利用者がもっともっと増えると思う。

展示に関わる作業は大分慣れてきて、短時間で作業が終了している。以前だと怪我をしたとか2、3度あったが、今のところ1年間でそういうことは何も報告されていない。作業するにしても脚立なり作業の道具が揃っている。

また、天井が高くなった分、確かに作業が大変になった。展示する方も高齢化しているので、慣れた方が手伝ってくれるボランティア組織が必要になってくるのではないかなと思う。これからますます使い勝手の良い、良いギャラリーにしていってもらえたらと思う。

(吉原委員)

図書館の排架が来るたびに変わっていて、手が込んでいて、職員の方々の御苦勞を感じる。先人顕彰コーナーで図書館の歴史を見ていて、戦時中に本を疎開させたとか、そういったところからも図書館の歴史を守っていくための必要性を感じた。毎回、この先人顕彰コーナーが替わるたびにしているが、とても施設に合っていて、特に米沢の歴史を知る上で参考になるのではないかと感じている。

図書館の反対側の歩道にフラワーポット、チェーンが張られた。それを設置したことで町並みが明るく、とても良いと思った。そこは歩道がないところを渡られる方がいて、怖いというのもあったので、とても良いアイデアだと思って拝見した。

6月にここの体験学習室をお借りして防災講座を開催したが、県外、市外から参加された方も多く、とても良い施設ですね、と。また、とても使い勝手がいい部屋だと感じている。機会があったらぜひまた使いたい。

(大沼委員)

中高生のマナーについては開館前から学校側としては心配していた。自転車の乗り方、あるいは電車の乗り方などマナーの問題は日常、苦情の声は学校に届いている。学校側としては、クラスでも全校でも注意をするし、教えるのも大人の役目だと思って、そこはきちり

指導したいと思う。

本日の会の前に、ここを使う生徒や職員、あるいは米沢市外の方に聞いてみた。総吹き抜けで声が響く構造ではないかという指摘があった。学校の図書館で大声で話している生徒は誰もいないが、公共の図書館に来ると、そういうことをしてしまうのはなぜなのか。理由の1つは、ここは話していい所、食べてもいい所という区別がつかないまま、来ているのではないか。そういった表示も含めて工夫が必要なのではないかと思う。

蔵書や排架についての要望として、県も国もいわゆるただ単に知識を伝達するという教育から、調べて考えて伝えるという教育の流れに変わってきている。その中で「調べ」という部分で市立図書館が有効である。調べ学習やヤングアダルト向けの本が市立図書館にあると良いという声があった。

企画運営に関しては、図書館の特徴は何だろうと考えると、様々な年代の人が集まるということではないか。コミセンに行けば、高齢者向けの講座も山ほどあるが、中高生向けの講座はない。図書館の役割、様々な年代の人が集まるということ踏まえて企画をしてほしい。小さな子ども向けの読み聞かせだけでなく、中高生向け、大人も参加できる企画もほしい。

ビブリオバトルというのが今少しずつ普及していると聞くが、具体的には、紹介したい本を自分で1つ選んで集まり、1人5分ずつ持ってきた本の説明をする。そのあとみんなでどの説明が良かったか、読みたくなったか、自分の本以外に投票する。そしてチャンプを決める。この取り組みは、中高生から高齢者まで本好きの人が集まって異年齢集団の中でやれる体験で、市立図書館でこそやれる企画ではないかと思う。

最近、語彙力がなくなっているとよく言われる。「読む」というのももちろん大事だが、それを使って「伝える」という行動があつて語彙力が身につく。そういうことを考えるとビブリオバトルなんかは非常に面白い取り組みではないかと思う。

また、職員対応でレファレンスについてはいつも笑顔で対応していただき感謝しているという声がほとんどだった。ギャラリー、施設の管理は入りやすく今のみままで良い、といわれた。

その他として、これは米沢市外の方だが、「ナセ BA」っていったい何だという声が非常に多かった。米沢市民はみんなナセ BA というとわかるが、外部の人にはわかりにくい。ロゴマークは図書館とギャラリーだとわかるマークになっているので、これをもっと活用し PR していかないと米沢市内だけのナセ BA になってしまう。

(会長)

マナーの問題は、大人が気付いたら直接丁寧に説明していかなくてはならないと思うが、館内放送によるアナウンスはできるのか。

(事務局)

放送はしない。読書されている方もいるので、よほどの緊急の場合のみ。

(会長)

そういった意味では、ここは勉強する所、ここは食べていい所だよということをどういう形で知らせていくか。

(事務局)

現場で見ていると、友だち同士が教え合っているから、食べている生徒は確信犯。知っていてやっている。ここはダメな所だ、良い悪いは高校生はほとんど知っている。見ているとわかるので、そういう生徒たちには注意をしている。

(会長)

これはやはりわれわれ大人が気づいたら、注意をして教えるしかない。

(事務局)

開館当時、ここは日常的に来てもらう施設なので、サインもけばけばしくはしなかった。当初は一瞬どこに何があるかわからないという声が上がったが、今はなく、その意味では落ち着いた雰囲気の中で読書をしていただきたい、という思いでそうしている。

(土屋委員)

はじめに小中学生のマナーについてだが、いろいろ御迷惑をおかけして申し訳ない。開館当初は色々御迷惑をおかけしたが、職員や大人のみなさんに御指導してもらい、最近はお叱りもなく楽しく使っているのではないかと思ひ、感謝している。小さい時からこういう施設に通って、施設ではどんな風に自分をコントロールしていかなければいけないか、わかって成長していけば良い大人になるのでは、とそういう点でも感謝している。

ナセ BA 開館 1 周年を迎えて、図書館が私の学区にあるので、花植えについては改めて学校でも案内を作り、子どもや保護者に呼びかけ、当日もみなさんに来ていただいて大変うれしく思っている。関わりをぜひ大事にしていきたい。

ウッディコンサートについては、学校でも演奏してもらったりしてとてもありがたい。興譲小学校は学区内なので恩恵をととても受けていて、毎日夕方も来れるが、米沢市内全体をみると来れない子どもたちがいるので、私ももっと校長会で宣伝しなくてはならないと思っている。月 1 回校長会があるので、ナセ BA ではこういう風に行っていると宣伝し、そこから子どもたちや先生に伝えて、せめて土日や学校の行事でバスで市内に来るときはナセ BA に寄るとか、そういう宣伝を頑張りたい。

ナセ BA の利用統計を見たが、良かったと思っている。ナセ BA 建設の経緯を知っている

者としては、館長や職員のみなさんの頑張りがこの数字になっているのだと感謝している。今後ともよろしく御願います。

(事務局)

土屋委員から言われた興譲小の児童はたくさん来てもらっているが、勢いが減っている。来る子どもの顔ぶれが決まってきた。読書通帳も楽しみにしている子もいるが、使う子、使わない子のはっきりわかれてきている。今、全部で1600冊くらい出ていて、4冊目に入りそうな子もいる。もっと利用してもらいたい。

大沼委員からあったビブリオバトルは、現実的な開催は難しい。県内では芸工大などで行っている。非常に面白い試みではあるが、実際に開催に持っていくまでに結構なエネルギーが必要である。一方的な主義主張にならないよう、コーディネーターの役割も大きい。構成をトータルに考えるのが難しい事業だ。

(会長)

私としては1年間大変御苦労されたと思う。開館前から関わっていた者としては、30万人を目指しましょうという目標を達成されたことと、新刊コーナー、特集、季節、書評カードとか職員の方が日々努力して、利用者が気持ちよく利用できるように配慮しておられることに感謝したい。

マナーについては、公共施設の中でどういう利用をすればいいか中高生が学んでいくのも社会、大人の役割なので出来るだけ注意をしていただきたい。やはり大人たちがマナーを子どもたちに教えていかなければならないと思う。

そろそろ1年経ったので、ぜひ次のステップとしては、われわれ手持ちの本を図書館でぜひ使ってもらいたい。リユースをどうやるか、検討を始めてもらいたい。個人的にはこまやを活用してイベントをしてもらいたい。中嶋委員にはぜひPRしてもらいたいと思う。

(事務局)

リユースについては、本来開館1周年で始められたらと思っていたが、もう少しお待ちいただきたい。おかげ様で開館してから寄贈される方が増え、月に何度かある。図書館は一般の家庭より蔵書数ははるかに多く、たいていの本はある。図書館の蔵書としていただく場合と、リユースとって、図書館が預かり、別の欲しい方に差し上げる場合と、または廃棄する場合と、その3つの方法の判断をこちらでさせていただくことを前提に預らせてもらっている。無下にお返しはしていないが、捨てるのならば持って帰るという人もいる。

(理事長)

貴重な御意見をありがとうございます。予想以上に職員の対応や財団の運営を評価する御意見が多かった。大変な賑わいを見せた分、中嶋委員からあったように人手が足りない

いう厳しい状況にもあった。

こまやについてはもっと使ってもらいたい。もともとこまやを使って、賑わいをというのが基本構想なのでぜひ使ってもらいたい。

大沼委員からの、ナセ BA は県外・市外の人にはなじみが薄いという御指摘があったがもったもな話。もっともっと宣伝していきたい。ここに図書館があることを知らない人もまだいるので、市外にも宣伝していきたい。

貸出冊数も増えているが、もっと増えて欲しい。新規登録者ももっと増えて欲しい。市民が毎年、何十冊も読むような読書の町になるよう、委員の方の御協力を御願いたい。

ギャラリーについては稼働率 75%とあったが 2 年目はどうなのか。さらに使いやすいように努力して行きたい。今後ともよろしく御願います。

(会長)

では以上で議事の方は終えたい。

(事務局)

このあとの予定だが、いただいた意見を整理し、改善を図るための具体策を講じていきたい。その結果は 2 回目の協議会で報告したい。

9. 閉 会 (事務局長)

以上